

令和 7 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200785
法人名	株式会社 WALK
事業所名	グループホーム白寿園戸出
所在地	富山県高岡市戸出吉住新 1 4 番1
自己評価作成日	令和7年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

白寿園戸出は、四季折々の風景を感じられる場所にあり、ゆったりとした時間の中で一人一人の役割や楽しみを「共に見つけ共に行き共に笑い」時には心に寄り添うような関りを大切に支援しています。  
ご家族や馴染みの方々との絆が途切れないよう本人が「自分らしく心から笑って過ごせる毎日を送ることが出来るよう」大切な人との面会や行きたい場所に行ける外出への支援、楽しく笑って過ごせる場の提供、月1回のお便りにて日々の様子をお伝えしホーム、家族、馴染みの方々や地域の方々が共に支え合っているような施設を目指しております。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和7年8月22日	評価結果市町村受理日	令和7年10月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者の意向や希望は日常の関わりだけではなく、プラン作成時に直接聞きとることや、担当職員と計画作成担当職員がコミュニケーションをとってモニタリングや再アセスメントされていることなど確実にPDCAサイクルを回し、ケアにつなげている。外部に連絡や外出できる自由度があり、洋服の買い物や外食に行くなどフットワーク軽く出かけてもいる。管理者や会社代表は現場との距離が近く、職員とのコミュニケーションも良好で働きやすい環境にある。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	令和7年度より代表変更に伴い、理念を新しく職員間での周知、共有にて研修の機会を設けたり、正面玄関前及び廊下に運営理念、介護理念掲示し、業務の中で理念を意識したサービスを提供できるよう努めています	代表変更に合わせて今年度から新たに企業理念と介護理念を新しくした。研修を実施し全職員で新たな理念を共有し、また、理念をもとに職員ひとりずつの理念を考え、個人の理念を風船に見立て、企業理念や介護理念とともに手作りし大きく張り出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議での行事の確認や町内の青年団による獅子舞鑑賞など行っています。	二つの地区にまたがった立地のため、両方の地区との関係が構築されている。災害時など何かあった際にはいつでも自治会長や民生委員に連絡できるようになっている。青年団の獅子舞も訪れるなど地域に根ざした事業所であることがうかがえる。	新型コロナウイルス感染症の流行前に行われていた小学校などとの交流が再開できるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で民生委員の方などから相談を受けた際は介助方法など提案したり、認知症の方の理解して頂けるようなテーマを考え、情報提供を行っています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議を開催しています。BCPや災害に関する意見交換の他、離設や徘徊に関する協力体制の提案なども行ったりしています。	2つの地区の自治会長や民生委員、婦人会、老人会や市議会議員などで委員が構成されている。離設時の対応や災害時のことを話しあったりなどしている。議事録は玄関に掲示されいつでも閲覧できるようになっている。	運営推進会議の参加や結果の共有がさらに広く家族や関係者に行われるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	加算に関する届出の相談や運営指導、人員基準に関する相談を行ったり、事故や苦情時の対応についても報告や相談を行ったりしています。	不明なところなどあればその都度市の担当に連絡し、確認している。人員配置や加算のことなど電話で確認を行なった。介護相談員の受け入れも行っており、市との関係が築かれるよう取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修及び3か月に一回(4.7.10.1月)身体拘束委員会を開催し、各ユニットの担当者を交え、現状の状態報告、今後の予測を交えながら、身体拘束をしない事を前提に対策を話しあっています。	定期的に委員会と研修を行い、指針も整備されている。職員が意識を持ってもらえるよう全国各地の身体拘束の啓発ポスターを事業所内に貼り出しており、また、事業所でも独自のポスターを作成中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のない職場づくりを目指し、定期的に研修会を開催し、職員一人ひとりが日常のケアについて考える機会を設けています。また、職員同士の言葉がけなどにも常に注意を払うことで、虐待につながるような言動が起こらないよう、必要に応じて職員の交代や対応を行っています。さらに、職員の精神的ストレスを軽減するため、日頃から様子を観察し、声掛けを通して心のケアに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の権利擁護に対する理解と意識向上を目的として、社内研修を定期的実施しています。研修を通じて、職員の知識を深め、適切な支援の在り方を再認識する機会を提供しています。今年度は成年後見に制度に関しても、学ぶ機会を設けたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス開始前には、自宅・施設・病院などへ訪問し、本人と直接お話しする機会を設けています。入居契約書や重要事項説明書に基づき、十分な説明を行い、不安や疑問に丁寧に対応することで、安心してご理解いただけるよう努めています。また、契約内容に改定がある際は、お便りにてお知らせし、担当者の氏名や連絡先を記載するなど、適切な対応に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、電話・通信アプリ・メールなどを活用し、面会時や毎月の請求書に白寿園だよりを同封することで、日常の様子を伝えたり利用者様やご家族の要望やご意見にも耳を傾け、話しやすい雰囲気づくりに努めています。また、運営推進会議の活用や、通信アプリ・メールを通じて情報共有を行い、思いや状況を確認し合う機会を設けています。職員間でも、ミーティングや掲示板などを通じて円滑な情報共有に努めています。	家族とは面会時やメール等で連絡を取れるようになっており、プラン更新時などに意見をもらったりしている。利用者からも今いる事業所が今後どうなるのかなど意見があり話あったこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや親睦会の他、年2回の個人面談など意見や要望、提案などを発言できる環境作りに努めています。業務上の提案等に関しては、実現できるよう取り組んでいます。	職員の相談や意見は最初に管理者が聞き取りをしている。休みや給料に関してなど個人的な内容もあり、内容に応じて代表が対応している。物品の購入など必要なものはすぐに対応されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境の改善に取り組んでいます。年2回の人事考査制度もあり、自己研磨・啓発が賞与に反映されている為、レベルアップにつながっています。また派遣からの正社員への雇用なども行っています。職員の評価すべき点等に関しては随時代表者に報告し働きやすい職場づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修では研修報告書の記載を通じ、職員のレベルに応じ、外部研修の機会の提供を行っています。職員のレベルに合わせ、外部研修など提案し個々の意識向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症の拡大防止の観点から、十分な交流が難しい状況ではありますが、近隣施設との情報共有については、可能な範囲で適宜行っています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談・申し込みの段階から、ご家族や担当介護支援専門員より、本人のご状況や思いを丁寧に伺っています。面談や、現在利用されているサービス事業所からの情報収集も事前に行い、必要に応じて体験入居も実施することで、本人が安心して生活を始められるよう信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当者・管理者・看護師・リーダーが、入居前後を通じて面会・電話・訪問などの機会を通じて、ご家族の思いや願いを丁寧に伺うよう努めています。何でも気軽にお話しいただけるような、安心感のある雰囲気づくりに力を入れ、ご本人とご家族に寄り添った支援を心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人およびご家族の困りごとや、これからの思いについて聞き取りを行い、必要に応じて書面にもご記入いただくことで、状況の把握に努めています。そのうえで、本人が自分らしく安心して生活できるよう、信頼関係を築きながら支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の中で本人ができることを一緒に行うことで、安心感や満足感につながるよう努めています。また、認知面においては個人差があるため、本人が安心できる呼び名を使用したり、寂しさやつらさといった感情に耳を傾けるなど、その時々思いに寄り添うことで、共に安心できる関係づくりを心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の絆を大切にいただけるよう、面会・外出・電話などの機会を積極的に設けています。記念日には、ご家族と過ごせる時間を持てるよう柔軟に調整を行い、本人の気持ちに寄り添った対応を心がけています。入居後は、お互いの良い面を改めて再確認し、良好な家族関係が築けるような温かい環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の集まりや誕生日会などの場を提供し、墓参り・外食・買い物などについても、柔軟に調整・支援を行っています。また、ご家族以外にも、友人や地域の方との面会について、本人の思いを大切にしながら支援を行い、つながりを感じられる時間づくりに努めています。	持参されている携帯電話や希望時に事務所の電話で自由に家族に連絡できる。外泊も自由にできる環境を整えており、お盆に帰ってお墓参りされる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居の段階から、本人同士が気の合いそうな方を検討し、馴染みの関係づくりに努めています。また、食事の席やイベント時の配置にも十分に配慮し、コミュニケーションがとりやすいように職員も間に入り、安心して過ごせる環境づくりを心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には、次の生活の場でも安心して過ごしていただけるよう、可能な限りの情報提供を行っています。また、施設・家族・協力医との間で気軽に相談できる関係づくりにも努めており、円滑な連携を図っています。退居後も、本人のお写真などをUSBに保存してお渡ししたり、現状の様子や家族の不安などを電話やメール等でやり取りすることで、ご家族の不安の軽減につながるよう支援を継続しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やしぐさ、表情、行動などから本人の思いを汲み取り、ケア記録や支援経過記録に反映し、職員間で共有することで、意向の把握に努めています。また、ご家族の思いについても会話を通して丁寧に伺い、支援プランへ反映できるよう心がけています。	日々の関わりの中で思いを聞いたり、プラン作成時に直接思いや意向を聞く時間を作っている。キャッチした思いや意向は介護記録や日報に記載して職員間での共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、本人およびご家族から生活歴を確認し、その内容をアセスメントシートに記載しています。また、支援を進める中で新たに得られた情報についても、随時追加・共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過記録や行動把握表、バイタル表や受診票に記入したり、毎月のミーティングにて個々の状態把握、情報共有に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の担当者およびケアマネージャーがモニタリングやアセスメントを行い、本人やご家族の意向を確認しながら、利用者の状態に応じてミーティングを実施しています。また、状況に応じてケアプランの見直しも随時行っています。	本人の思いをもとに職員間のミーティングで内容を話し合い、家族の意向を面会時や電話で確認した上でプランを作成している。プラン更新時に担当職員とともにアセスメントも取り直しており、チームで計画作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援経過は項目ごとに記録し、個々のケアプランや関連情報を職員の目に留まりやすい場所に設置することで、情報共有を図っています。これにより、可能な限りケアプランに沿った支援を提供できるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩やドライブ、外食、買い物、墓参りなど、ご利用者の希望に応じた支援を行い、本人・ご家族にとって最適な方法を一緒に考えるよう努めています。また、家族からの協力依頼にも対応し、双方で連携を取りながら、ご本人が望む暮らしに少しでも近づけるよう支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の獅子舞、地域の飲食店・ベーカリー・スーパー、本屋などへの外出支援を行い、利用者様が生活の中で楽しみを感じられるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の思い、病歴に応じて専門医や必要に応じて協力医の紹介を行っています。通院が可能な場合は、ご家族による付き添いをお願いし、現在の状態が分かるような書類を作成して手渡しやFAX送付を行うことで、適切な治療が受けられるよう支援しています。薬剤師とも積極的に情報共有を行い、服薬状況の把握や適切な薬剤管理に努めています。	入居時にかかりつけ医を選んでもらい、その際必要であれば事業所の協力医を紹介している。外来受診時は同行される家族に近況のメモを渡し、状況を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師、各利用者の主治医や担当看護師に対し、異常が認められた際には速やかに情報共有を行い、受診の必要性などについて判断を仰ぎながら、適切な対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添い、情報提供を行っています。担当看護師や相談員とも連絡をとり、早期退院できるよう努め、家族の思いの再確認、不安等も踏まえ一緒に今後の病状の予後や生活への注意事項等を聞くようにしています。必要であれば、食事時や立ち上がりなどの動作、状況の確認が出来るような時間帯での面談の調整も双方で行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申込みがあった時点から看取りに関する説明を行っており、契約前には終末期に向けた思いを確認した上で、『重度化対応に関する指針』についての説明と、同意書への署名・捺印を頂いています。生活の中で病状の悪化や、本人・ご家族の思いの変化が見られた際には、主治医や施設側と今後の対応可能な範囲について話し合い、並行して受け入れ先の検討やご家族への意思伝達を行うなど、支援に努めています。	契約時に指針をもとに看取りの説明を行い、了解を得ている。希望されれば最期まで対応する体制を整えており、また、外部のACP(アドバンス・ケア・プランニング)の研修への参加もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内にはAEDを設置し、緊急時に迅速かつ的確な対応ができるよう、マニュアルを整備しています(特定技能者向けのものも含む)。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年2回(7月・12月)実施予定であり、災害時に備えて水や食料などの備蓄も行っています。年内には水害や地震発生時の初動対応に関する訓練も計画しており、非常時でも落ち着いた対応ができるよう努めています。	戸出地区の避難訓練が近く行われる予定で参加を検討中であり、また、自治会とは災害時にすぐに連絡できるようになっている。消防署の立ち会いのもと火災訓練の実施も行なった。防災頭巾や水、米などの準備もある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴、更衣といったケアの場面では、のれんの設置や扉を閉めるなどの対応を通じて、プライバシーへの配慮を行っています。また、勉強会やミーティングを通じて、職員間で声かけや接し方について理解を深め、振り返りを行っています。周囲への影響も考慮し、1対1での対応を基本とすることで、安心してケアが受けられる環境づくりに努めています。	接遇の研修を実施し、声かけや接し方など意識してケアされている。プライバシーや人格を損ね兼ねない声かけや接し方をしたスタッフには、その都度注意して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話を通じて本人の思いを丁寧に確認し、選択肢を提示することで、目で見えて選べるような工夫も取り入れながら、個々の能力に応じた自己決定を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、できる限り本人の思いを優先し、希望に沿えるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理容では、本人の思いを伺いながら、カットだけでなくパーマやカラーにも対応しています。入浴時には、着たい服を本人と一緒に選び、日々の身だしなみについても必要に応じて丁寧に支援しています。また、近隣の衣料品店(例:しまむら)へ一緒に買い物に出かけるなど、外出の機会も取り入れながら、個性の尊重と生活の楽しみにつながる支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に本人の食べたいものを伺い、食事の提供や外食の機会を設けています。食事の時間を楽しく過ごせるよう、盛り付けや席の配置にも気を配っています。下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、盆拭きなども一緒に行い、生活の中での役割や楽しみを大切にしています。ご家族から自宅で採れた旬の野菜をご提供いただくなど、ご協力も頂いています。	お昼ごはんの調理や片付けは利用者と職員が一緒に食材を切ったり、盛り付けたりしている。時々利用者の希望により弁当をとったり、近所に外食に出かけるなどして食を楽しめる時間を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量のチェックの他、摂取状況も観察した上で食事形態、ご本人が好む飲み物等の提供を行い、無理なく摂取できるよう支援しています。摂取量低下された利用者様や食事管理が必要な方への支援とし主治医への相談や家族にも協力を仰ぎ、本人の気持ちに寄り添い摂取できるよう支援する事もあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力や口腔状態に応じ、声掛けや準備、介助など支援を行っています。夕食後は義歯消毒をし清潔に努めています。上手く口が開けられない方や歯磨きが不十分であり、本人の自尊心を傷つける恐れのある方などは訪問歯科や歯科衛生士による口腔内の確認、掃除等の支援も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、個々の状態に合わせた支援を行っています。本人の羞恥心や出来る部分に着目し時間をかけ行ったり、その方に合ったパットの使用とトイレへの声掛けをしています。歩行状態も考慮し夜間ポータブルトイレ設置等、個々に応じた排泄環境に努めています。	一人ひとりの排泄状況に合わせて声かけしたりしている。上げ下げしやすいように下着サイズを考慮したり、ポータブルトイレを設置したりなど自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄リズムや水分量をチェックし、状況により牛乳・ヨーグルトを提供。医師の指示の下、緩下剤の調整、排泄コントロールも行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上入浴して頂けるよう支援を行っています。入浴剤の使用や保湿剤の利用、2種類の浴室が用意されており、個々の状態に応じ入浴して頂いています。本人のタイミングに合わせた声掛けの工夫や嫌がられる方には無理強いせず時間や人を変更する等し、安心した気持ちで入浴できるような環境に努めています。	最低週2回入浴いただけるようにしており、希望があれば追加で入浴できるようになっている。なかなか入浴いただけない方は無理強いせず、声かけするタイミングや声かけするスタッフを変えて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に就寝時間や就寝前の習慣が違う事もあり、テレビを観たり、本人が安心できるような布団を提供したり、室温、湿度調整を行い気持ちよく眠れるよう支援しています。夜になると不安になる方に関しては都度話を聴いたり、温かい飲み物を提供したりして安心できる環境作りを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱を用意。個人ファイルに処方箋を綴り、観察点、留意点など都度情報を共有しています。薬の変更時は副作用や状態悪化が見られないか観察を行い、主治医に報告を行っています。服薬時の様子なども薬剤師に報告、形状など相談行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の床拭き、洗濯物干し・たたみ、下ごしらえや盛り付けの家事や読書にパズル、大正琴演奏など個々の能力や思いに合わせて一緒に行っています。不安が聞かれる方がいれば散歩や外出の機会を提供したり、気分転換の機会も提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見やドライブに外食、買い物、七夕祭り、コスモス鑑賞、遠足など様々な企画を提案し実施しています。本人やご家族からの要望で墓参り、外食など互いで協力しながら支援行っています。	ドライブで地元の七夕祭りやコスモス畑など地域や希望に沿った外出支援をしている。それ以外にも自宅に外出や外泊をしたり、外食に出るなど日常的に外出できる環境が作られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度管理されている方いるが、買い物の際には自分で出されることもあるが殆ど使用する事はない。本人の安心感の為持っていただいております。必要な物品などは施設にて立替購入や家族様にて購入して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される際は、ご家族にご理解いただいた上で電話して頂いています。また携帯電話の持ち込みの方に関しては、充電の確認や操作の仕方を伝える支援行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りを共に作りホールや廊下に飾ったり、季節の花を施設や家族で準備し中庭のプランターに植えています。季節感を感じていただけるような空間作りも行っています。	季節ごとに空間の飾りを考え、現在は涼しげな飾りがほどこされている。中庭からは自然光が入りいつでも花を楽しめる。キッチンやお風呂などに近いエリアとテレビが設置してあるエリアがゆるやかに分かれており、静と動の雰囲気のある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファには、自然と仲の良い方々が集まり、会話を楽しんだり、個々の趣味に取り組まれたりしています。廊下には季節を感じていただける掲示物を展示し、散歩のついでに目を留めていただけるような空間づくりをしています。一人で過ごしたいと玄関を選ばれる方もおり、本人が安心できる場所で過ごせるよう、椅子の設置や室温など環境面にも配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族にお願いし写真や思い出の品を自由に飾って頂いています。パソコンやタブレット、携帯電話なども持ち込み行い、都度本人、家族と相談しながらホームでの生活を安心した気持ちで過ごせるよう工夫しています。	家族の写真や自分の作品など自由に持ち込みできるようにになっている。中にはパソコンやタブレットなどを持参され自分用にカスタマイズして利用できる空間にされている方もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かるようにトイレや部屋に貼り紙をしたり、施錠の時間を記入したお知らせを貼ったりしています。本人の生活スタイルに合わせた必要物品などを固定の場所に置いたりして分かりやすい環境作りに努めています。		

## 2 目標達成計画

事業所名:グループホーム白寿園戸出

作成日: 令和 7 年 10 月 7 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	施設の取り組みや日々の様子が外部に伝わりにくく、理解や関心を持ってもらう機会が少ない。自施設の状況や取り組みなどを多く知って頂くことで災害時や行事などにおける協力体制の構築を目指したい	運営推進会議で話し合った内容を、ご家族にもわかりやすく伝え、施設の考えや取り組みを知ってもらう。	・2か月に1回、運営推進会議の議事録を施設便りに同封して、ご家族にお知らせする。 ・ご家族へ運営推進会議への参加を促していく。	12ヶ月
2	4	コロナの影響で、地域との交流の機会が以前より減ってしまっている。コロナ前のような地域交流を再開し、施設と地域がともに支え合える関係づくりを目指したい	利用者様や職員が地域行事に参加できる機会を少しずつ増やし、地域とのふれあいの場を広げていく。	・地域包括支援センターや自治会の方と定期的に連絡を取り、情報共有を行いながら、地域で開催される行事に、利用者様や職員が可能な範囲で参加できるよう調整を行う。 ・年間行事の企画段階から、地域の方にも参加してもらえるような内容を考え、案内を行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

### 3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 ( ↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他( )